

「ご遺族様と社員との対話」 概要

1. 開催日時 2025年9月10日（水） 14：50～17：25
2. 開催場所 横浜市内
3. 出席者 ご遺族様3名、当社社員16名

4. 概 要

意見交換の概要

- ・冒頭ご遺族様から、13年経っても癒えることがない笹子トンネル天井板崩落事故（以下「事故」という。）に対する想いや、社員との対話を求める理由などについてお話いただくとともに、参加した当社の社員に対し、二度とあのような事故を起こさないために今回の対話を再発防止に活かしてほしいとのお話をいただいた。
- ・当社の社員から、事故当時に考えたことや事故後に安全性向上に向けて取り組んでいること、今回ご遺族様のお言葉をお聞きして改めて感じたことなどについて発言し、ご遺族様と意見交換をおこなった。
- ・ご遺族様から、エンジニアリング会社で点検を担当している社員の話を聞きたいと改めて感じたこととご要望があり、また、被害者だからこそ伝えられるものがあるので当社に出向いて話をしても構わないとのお話があった。
- ・ご遺族様から、当時の一人ひとりの意識の低さが事故を起こしたと思っているが、今は快適に走行できるよう高速道路を管理している社員の仕事に感謝しているとのお言葉をいただいた。

当社社員の感想

- ・未だ癒えることがないお苦しみや深い悲しみの気持ちを直接お聞きし、二度とあのような事故を起こしてはならないという意識がこれまで以上に強まった。事故を起こした会社の社員として、ご遺族様のお気持ちに向き合い、安全性向上の取り組みを続けることが私たちの責務であると改めて認識した。
- ・「良い会社になって欲しい」との当社へのお気持ちに対し、そのご期待に応えなくてはならないと身の引き締まる思いがした。お客さまに安全な道路を提供することが私たちの最大の使命であり、常に努力し、研鑽し続け、自分ごととして全力で取り組むことを決意した。
- ・事故のことを決して忘れてはならないと改めて認識した。事故発生後に対応した社員は年々減少していることから、事故の教訓を確実に伝承していくようグループ全体で取り組んでいくことが必要であると感じた。
- ・ご遺族様と対面する前は少なからず精神的な負担はあったが、今は対話に参加させていただいてよかったと思っている。今回の経験を自分の言葉で社内に伝えて安全意識の底上げを図るとともに、次回の対話に参加する人が近くにいたら後押しをしたいと思う。

今回の対話を受けての当社の取り組み

- ・参加した社員は、社内研修やそれぞれの職場での職場討議などで、今回お聞きしたご遺族様の想い、参加した感想や今後の取り組みに生かすことなどを自身の言葉で発信し、社内の安全意識のさらなる浸透を図る。
- ・ご遺族様から継続的な開催のご要望をいただいております。また、当社としても対話は事故の記憶の風化を防止し、安全性向上に向けた取り組みをさらに深化させるために有意義であることから、ご遺族様とも相談させていただきながら次回開催を前向きに検討していく。